

ひめゆり 通信

第157号

2019年6月27日号

<http://hozanji-wel.org/>

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 〒630-0257 奈良県生駒市元町2-14-8 桃李館内 TEL:0743-74-1172 / FAX:0743-74-1911

主な目次

- 巻頭言 1
- 滝寺お花まつり 2
- いこまこども園乳児棟竣工 3
- 新規採用職員 辞令交付式・研修会 4
- 高齢者施設・児童施設からの報告 6
- 叙勲 13
- 追悼の記 14
- 施設長就任挨拶・新任職員からの一言 16
- 人事・法人苦情第三者委員会 18
- 事業活動計算書・資金収支計算書 19

麦秋

宝山寺福祉事業団理事長 辻村 泰範

新幹線が京都を離れ、車窓にチラッと瀬田の唐橋が見えるとそのうちに湖東の田園地帯が広がってくる。目に飛び込んできるのは水を張って田植えをしたばかりの田んぼもちろんだが、秋の田のように黄色く色づいた田んぼの広がりだ。刈り入れを待っているのは麦である。

初夏の麦を刈り入れる時期を「麦秋」と言うが、あまり聞かなくなった。昔は稲と麦を交互に栽培する二毛作が普通であったが、最近は麦を栽培する農家が減ってしまったということだろう。

「もう稲が実っているわ」麦を見たことがないらしい若い女性の声が漏れ聞こえてくる。冬から早春の頃、芽を出したばかりの麦は踏みつけることによって強く根を張り豊かな実りをもたらすのだと聞いたが、きっと麦踏みなどという言葉も死語となってしまうているのだろう。そういえば私自身もすくすくと伸びた麦の茎を手にしたのは大昔だ。まだ生駒小学校に入っている間もない頃、春の通学路の傍らには緑の茎にハリネズミのように穂先のヒゲをピンと伸ばした麦畑がごく普通にあった。

近年プラスチックゴミによる海洋汚染

が大きな問題となっている。スターバックスなど大手のコーヒーショップがプラスチックのストローを紙製のものに転換してプラスチックの使用廃止に踏み切ったところが増えている。ストロー(Straw)は麦の茎を表す英語だ。子供の頃、ジュースを飲む時のストローは実際に麦の茎を切りそろえたものだった。そつとつかんで上手に扱わないと縦に筋が入ったりして空気が漏れるので吸えなくなってしまう。英語でストローハットといえは麦わら帽。夏の青空の下では農作業をする大人たちも、トンボ追いをする子供たちもみんな麦わら帽子をかぶっていた。どれもこれもみんな自然の産物。植物から産まれ最後は土にかえる。

親父(泰圓さん)も、どんぐりにいちやん(中山文夫さん)もみんな麦わら帽子をかぶって作業をしていたなあ。

令和に改まった五月、時計を逆に戻すことができないのを承知で懐古趣味に耽ってしまった。

時計を止めよう、戻そうではない。福祉

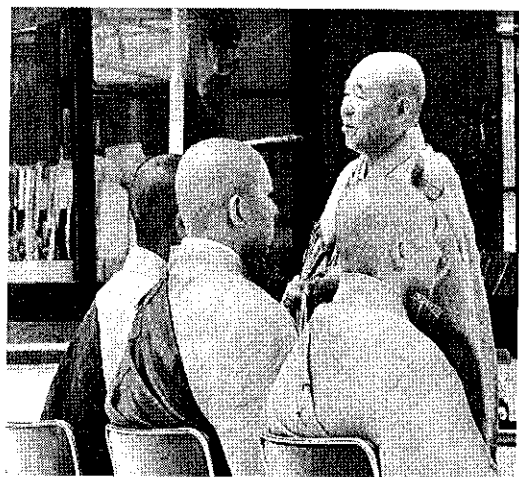
の世界でも生産性の向上や仕事の効率化、AIやロボットの導入など技術革新の話題でいっぱいだ。避けられない時代の流れの中にある。そんな折テレビに映し出される天皇即位に関わる映像はどれもこれも古色蒼然たる古典の世界だ。

皇室の伝統儀式や祭事がこだわり守り続けるものが現代社会に投げかけているのは何か。形だけの問題ではないような気がする。

滝寺お花まつり

仔鹿園

実行委員長 田中 一嘉



平成31年4月21日(日)に滝寺お花まつりが開催されました。今年「平成」から「令和」へと改元を迎える年でもありました。この度は事前に時期を知る事できるといふ今までに経験したことのない改元の前のタイムミングでもありました。滝寺のお花まつりは、お釈迦様の誕生をお祝いする仏教行事であり、滝寺を事業創設の地とする我が宝山寺福祉事業団にとって、とても大切な行事であります。お釈迦様の誕生をお祝いするとともに日ごろからお世話になっている地域の方々、関係者を感謝の気持ちでおもてなしをさせていただく行事でもあり、日ごろ顔を合

すことが難しい法人職員同士が一つの目標に向かい、交流を深める行事でもあります。

私は昨年度、あくなみ苑、小森実行委員長の下で副実行委員長として花まつりに参加いたしました。昨年経験したことをしっかりと生かして取り組もう！これまでお勤めされた実行委員長の方々からの引き継ぎを確認し、この歴史ある法人行事に実行委員長として臨みました。そして平成31年になり、1月頃より準備が始まり、実行委員長として準備を進め始める中で、「自分に努めることが出来るのだろうか?」「どのように進めて行くことが最善なのか?」「今自分がしようとしていることは正しく進められているのか?」と不安な気持ちが頭をよぎりました。そんなところからともなく湧いてくる不安を理事長、総務部長、施設長と話をし、確認しながら、1つずつ歩みを進めました。また各施設でお花まつり実行委員を選出して頂き、実行委員会を組織し、細かな内容については会議で話し合いを行い進めましました。自分が頭で描いている事を実行委員の皆さんと共有し、また皆さんが頭に描く像を自分と共有し同じイメージが持てるように会議を進めました。そうする事でとめ

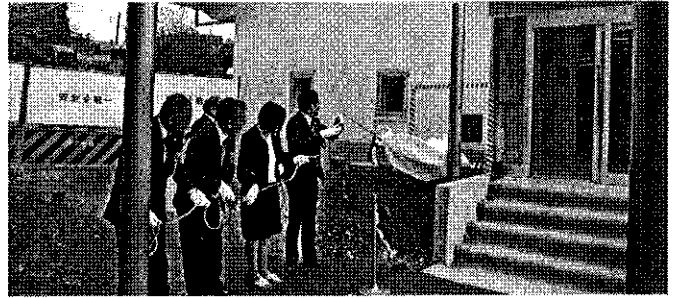
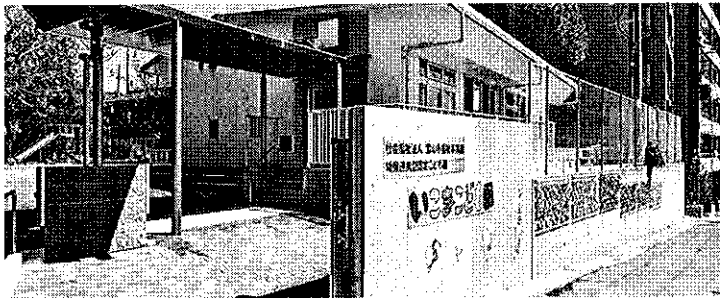
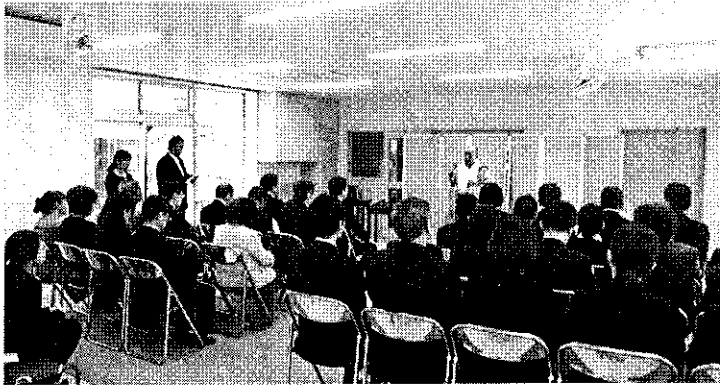


どなくわく「不安」から1つずつ「確信」に変えて行くことが出来ました。また今年度副実行委員長を務めていただいた、デイセンター寿菜の中島さんのサポートも受け準備を進めて行きました。今年は、天候が味方をしてくれ事前準備、前日準備共に予定どおり準備を進めて行くことが出来ました。お花まつり当日は文句なしの晴天で迎える事が出来ました。お釈迦様の誕生を祝い、お稚児さんが行列を作り、滝寺本堂まで練り歩きます。袴を身に纏い、ドラの音と旗が先導し白像と共に歩くお稚児さんたちはとても愛らし笑い笑顔で歩いておられました。真言律宗、元興寺住職の辻村泰善御住職に加持を授けていただきお釈迦様の誕生と子どもたちの成長を皆さんで祝うことが出来ました。その後、桃李館前の花

御堂へと移動し女性施設長の「花まつりのうた」で華を添えて頂き、愛染の鐘を聞き無事に第一部を終えました。第2部は花まつり恒例の屋台での食べ物や飲み物、バザー、子どもたちが遊べるスタンブラリー、ワニ叩き等にぎわいました。また法人施設からだけでなく、似顔絵さんによる似顔絵コーナー、喫茶でのハンドベル演奏等ボランティアでの参加や、地域の福祉事業所である、「かざくるま」からはクッキー、「はななさん」には綿菓子、ラムネの販売をしていただきました。また例年関西電力さんのご協力でストラックアウト、元興寺文化財研究所による飲み物販売、株式会社小山より福祉機器体験コーナー等法人の枠にとどまらず多くの皆様の協力の下、御来場者皆様に喜んでいただけるように取り組みました。フィナーレイベントでは「平成から令和へ 私たちは〇〇にチャレンジします!」をキーワードに我々宝山寺福祉事業団の各施設が「新たな時代へ、新たなチャレンジの誓い」を皆様にお伝えする施設紹介を行いました。各施設、趣向を凝らして皆様に楽しい雰囲気でお伝えできるように取り組みました。

終わりに、この度ご来場頂いた皆様や、ご来場が頂けませんでしたが常日頃、当法人の活動にご協力いただいた皆様、地域の皆様、法人職員や実行委員の皆さんのご支援のおかげで無事、花まつりを終えることが出来ました。誠にありがとうございました。来年度も御支援頂きますようよろしくお願いいたします。

いこまこども園乳児棟竣工



平成30年度保育所緊急整備事業として、生駒市の待機児解消のため昨秋10月11日、園庭南側に乳児棟を建設すべく、辻村理事長を御導師に安全祈願法要を行い、本年3月30日に竣工落慶法要を執り行いました。

0歳児20名定員の保育室は、南北に大きく窓を設け、北には園庭が開けており乳児の目線の先に大きな子ども達の遊ぶ姿が見られるようになりました。兄弟姉妹で園に通っている子ども達も、そうではない子ども達も一緒に乳児室を覗いて、子ども達の集まるポイントになっています。これまでにない光景です。

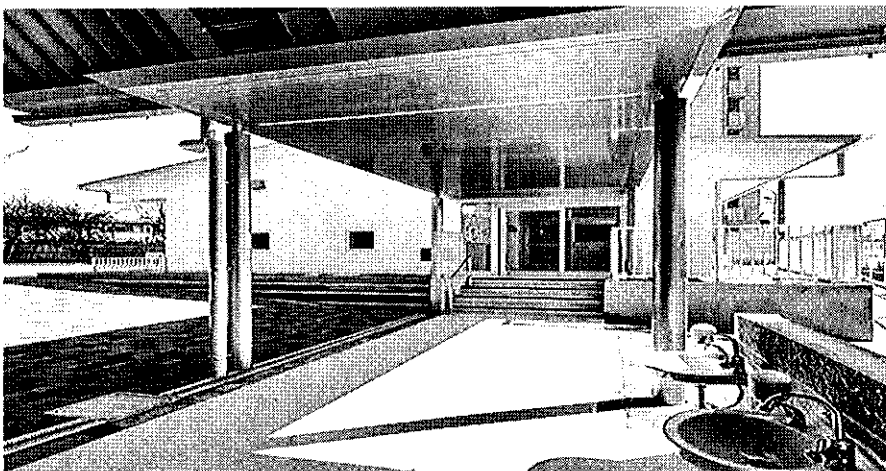
保育室内も内装や保育家具に工夫を凝らしました。両面使用のできるコマ付きロッカーを設置し、子どもの生活に合わせて間仕切りとして利用したり、保育者の体にかかる負担が減少されるよう、ハイチェアを導入したり保育者と子どもの目線が近く子ども達の視野も広がります。園庭側のテラスには幼児の使用する手洗い、足洗い場を設置し温水が出るシャワーもあります。これから泥んこ遊びも活発になる季節、衛生面でも一助となります。このテラスでは、1歳児も同じくプール遊びをします。以前の幼児保育室を改造しての0歳児室とは違って、細部まで乳児の発達にあわせた保育室造りができました。

本館と乳児棟を結ぶ渡り廊下を設置するにあたって、園玄関も大きく改装しました。園舎内に入る際の手洗い場所やベビーカー置き場の設置。これま

での重量な鉄の大門は、アルミ製の軽量なものに替え、東側に少し移動させることで子ども達が園庭に出る際の開口が広くなりました。また多様に対応できるように軽車両が進入できるようにもなり、園庭内の整備に効率化が図られます。

今回の事業は乳児棟の増築ではありませんが、全園児にとっても保育環境が豊かになったといえます。

いこまこども園園長 米田恵美子



設計：教育施設研究所

建設：㈱米杉建設

平成31年度 新規採用職員

辞令交付式・研修会

こども支援センターあすなる

研修委員 佐伯佐知



平成最後から令和元年という節目の年に、法人職員として採用される職員の辞令交付式と、新採用職員に向けた研修会を実施しました。今年度採用された職員は、正規職員30名、契約職員17名です。

ご縁あって法人の仲間になられた職員の方々が、それぞれの配属先施設でいきいきと活躍してくださることを期待しています。

正規職員は3月26日に施設見学、27日に辞令交付式・研修会を実施しました。

また、契約職員は26日に辞令交付式と基礎研修会を実施、基礎研修には長年パート職員として法人に努めておられる方々も5名一緒に参加していただきました。

【施設見学】

法人の礎である宝山寺・大乘滝寺・元興寺をお参りし、各施設を見学するバスツアーです。児童から高齢者まで多岐にわたる法人内の施設を実際に見学することで各施設の役割や業務内容を知ってもらう機会となりました。

【辞令交付式・訓示】

正式に法人職員として採用される職



員一人一人に、辻村泰範理事長から採用辞令が手渡されました。少し緊張した様子で辞令を受け取り、席に戻って姿勢を正す姿にがんばるぞ！という前向きな意志が感じられました。

続いて、理事長から訓示がありました。先代の理事長が戦後、街にあふれた孤児たちを何とか助けようと愛染寮を立ち上げられ法人がスタート、その後の社会ニーズに合わせて様々な施設が作られた法人の歴史と携わった人々の思いをお話ししていただきました。

私たち職員はその思いを引き継ぎ、法人理念の「興法利生」を胸

に、目の前の相手に「あなたが大切です」という姿勢で日々の仕事に向きあってほしい。また、法人職員として求められること、期待することについてもお話されました。

【コンプライアンス】

総合施設やすらぎの杜延寿の井上太施設長からコンプライアンス（法令遵守）についての講義がありました。私たちは同じ目標に向かって動くとする「組織」の一員であり、その中で法令や規則を守ることは、社会的責任を果たす上で大切です。SNSに投稿する職員一人の軽率な行為が職場や組織



全体に大きな影響を与えるという事を理解し、一人一人の倫理観が問われる時代です。

本質は「自分」にあり、自分でよく考えて行動し、よく理解し、なぜそうしたかを説明できるようになることで自分に自信がつくということでした。

【理解力・伝達力

～児童施設の現場から～

あすかの保育園の小林美香園長から、コミュニケーションスキルの基本となる理解力・伝達力についての講義でした。実際に折り紙を折り、それを相手に説明したり、写真を見てその場面を相手にわかるように伝えるにはどうすればよいか、実践を交えたグループワークを行いました。

理解力のポイントはよく観察し、情報を収集し、普段との違いに気づくこと。伝達力のポイントは主語をはっきり

5W1Hで伝え、事実と自分の考えは区別する、要点をメモに残すこと。自分では相手に伝えたつもりでも伝え方やとらえ方の違いでミスやトラブルにつながることがを防ぐ方法を学びました。

【リスクマネジメントの理解

～高齢者の現場から～

デイセンター延寿の井上貴至主任から、施設内で起きる事故を予測し、安全な環境づくりをするためのリスクの理解についての講義でした。演習の中で物や出来事を一方から見るとはならず、多方向から見ることで多くの気づきが得られるということ。職場の中に

潜む危険に気づき、その自分の気づきを周りの人に伝え共有することで、次に起こる事故を防ぐことができることを学びました。また、記録を正確に取る事の重要性も学びました。

【接遇・マナー】

契約職員は、仔鹿園の岡本とも子園長、正規職員はフェリアンの津村薫先生による接遇・マナーについての講義でした。社会人としての基本のマナーを身につけることや対人援助の仕事をする私達に必要とされる力は、あなたが大切ですよという思いが伝わる対応です。接遇の5原則は「挨拶・身だしなみ・態度・表情・言葉遣い」で人に与える印象は非言語コミュニケーションの部分が大きく、会釈したり、微笑んだり、相槌を打つなどを心掛けることが大切ということを教えてくださいました。

過度の一般化（みんなそう）、どうせ、べき思考、白黒思考などの思考のゆがみに注意し、自分の思考を理解しコントロールすることも大切です。日常的によい睡眠と運動を心掛け、セルフケアをすることでイキイキと良い仕事をしたいと思えます。

2日間の研修での学びを活かして日々の業務に励んでいただきたいと思います。

奈良県社員・シャイン職場づくり推進企業 表彰



高齢者部門・児童部門の施設長 表彰状を囲んで！

☆ 社員が輝き、企業が輝く！ ☆

この度、労働関係法令を遵守し仕事と家庭の両立の支援、多様な働き方の推進、労働者の雇用と能力開発等の取り組みの推進を行っているとの高い評価をいただき、奈良県社員・シャイン職場づくり推進企業の表彰をしていただきました。これを受けて今後も働きやすい職場づくりに一層励んでまいりたいと思います。

デイセンター寿楽

介護リーダーとしての抱負

リーダー 浅原 美幸

私がデイセンター寿楽でリーダーとなってから2年が経ちました。

初めはどうしていけばいいのか分からず、職員を指導してまとめていけるのか不安でした。リーダー職員として自分のできる事は何か？と自問自答する日々でしたが、考えているだけでは物事は進みません。これまでの経験や、先輩職員からの指導を元に、私はどんなデイサービスを地域のご利用者に提供して行きたいのかを考え、それを実現するために「できる事からやっつけていこう！」と考えました。

その為の取り組みの一つとして、私がリーダーになってから意識している事は、職員同士が馴れ合うのではなく、御利用者の為にしっかりと職員間でコミュニケーションをとって情報を共有し、協力し合える仲間作りです。今まで

高齢者施設より

以上に職員同士のチームワークが良くなれば、自然と御利用者への接し方も変わり、もっと喜んでいただき、楽しんでいただけるようなサービスに繋がっていくのではないかと考えています。

この想いは2年が経過した今も変わりありません。まずは私自身がしっかりと考えて行動し、他の職員の模範となるべく日常の業務に励む事に加えて、今年度からデイセンター寿楽、梅寿荘デイセンター、デイセンター延寿が合同で取り組んでいるマナー向上への取り組みにも参加させて頂く事になりました。

まだまだリーダー職員として、足りないことばかりですが主任をはじめ、まわりの職員に助けをもらいながら成長し、頑張っていこうと思います。

あくなみ苑

チャレンジ

介護主任 松本 直大

新年度を迎え、そして今年新しい元号を迎えました。そしてあくなみ苑ですがここ数年、特養の職員は異動などでメンバーが多く入れ替わりました。若い職員も多数入職し、主任・副主任なども昨年度から新体制で取り組んでいます。過去の良いあくなみ苑の風土をしっかりと

踏襲した上で、新しい事をチャレンジする、またとないチャンスでもあります。みな熱意を持って、取り組んでいます。それ故に衝突する事もしばしばあります。そこは、施設長が常々言っている「ご利用者の為に」という気持ちだけは絶対にブレずに、対話を続けて他部署とも密に連携していける体制を作ります。今年は人材育成の見直しと体制の確立。人材育成ではコーチングの手法を使って、各職員と一緒に目標設定し仕事へのやりがいを見つけてもらい、モチベーションを上げてもらう。そのうえで、新たな取り組み『記録のIT化（新介護ソフトへの移行・タブレット）』などを円滑に行えるようにしていきます。まだまだ未熟な私たちですが、チャレンジする気持ちを忘れず、取り組んでいきます。

延寿

令和に思うこと

グループリーダー 宇田 昌弘

延寿の特別養護老人ホームで介護職として働き始めて10年が経ちました。そして、元号が令和に変わった今年、グループリーダーを任されることになりました。

改めて10年前を振り返ってみますと、105歳の方を筆頭に100歳代の方が数名いらっしゃったように記憶しています。その頃の私のイメージは、明治生まれと言えば年

季の入ったお年寄りという感じで、いわば長老。利用者様の大半を占めていた大正生まれの方々が普通のお年寄り。昭和生まれの方と言えば、お年寄りとは思えない若い方々。漠然と、そのように感じていました。

明治生まれの方は、4つの元号の時代を生きてこれ、その明治という響きだけで、歴史の重みを感じたものでした。昭和1ケタ生まれの方は、お年寄りとはいえども、自分と同じ、2元号経験者、といった感覚でおりました。

10年経ち令和になった今、大正生まれの方が長老になられ、当たり前ですが昭和1ケタ生まれの方々をお年寄りと感じるようになりました。この10年に時代の変化を感じます。

そして、元号が変わり、時代が変わっても変わらないもの。それは相手に寄り添う、ということ。それを忘れず、手間暇惜みず丁寧に仕事をしていきます。

生駒市梅寿荘地域包括支援センター

生活支援コーディネーターの役割

第2層生活支援コーディネーター・介護支援専門員

大窪 亜希子

「生活支援コーディネーター」という言葉をお聞きになったことがありますか？

別名で、「地域支えあい推進員」とも呼ばれています。健康寿命を延ばし、住み慣れた地域で生き生きと心豊かに暮らしていけるよう、高齢者の生活支援・介護予防サービスの提供体制を構築するために必要なコーディネート機能を果たす役割を持っています。

この職種ができた背景には後期高齢者の人口が30%を超える2025年問題があり、「医療から介護へ」「施設から在宅へ」の流れの中、高齢者が地域で自分らしく生活を続ける支えとなる「住まい・医療・介護・予防・生活支援」の5

つを一体的に提供される仕組みを整備する目的で、厚生労働省が地域包括ケアシステムと共に推進してきました。

ますます多様化するニーズにきめ細やかに対応するため、福祉的資源の創出やネットワーク化、地域人材の発掘・育成、ニーズのマッチングを図るなどにより、地域で支え合う社会の実現を目指します。

生活支援コーディネーターには第1層から第3層まであり、第1層は市町村区域、第2層は日常生活圏域で活動します。第3層は個々のサービス事業主体となります。

この度、生駒市でも第2層生活支援コーディネーターを設置する運びとなり、梅寿荘地域包括支援センターにおいては私が務めさせていただくこととなりました。先に申し上げたことは、現在の私にとっては壮大すぎるミッションではありますが、まずは地域やお住いの方々のお困りごと、これがあったら嬉しいというようなご希望の一つでも多く真摯に伺い、包括職員や地域の皆様をはじめ多くの方々と手を取り合って、安心して過ごせる地域づくりに貢献できるよう頑張っていきたいと思っております。皆さまからも是非とも率直なご意見を賜りたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

梅寿荘デイセンター

心身ともに維持・向上

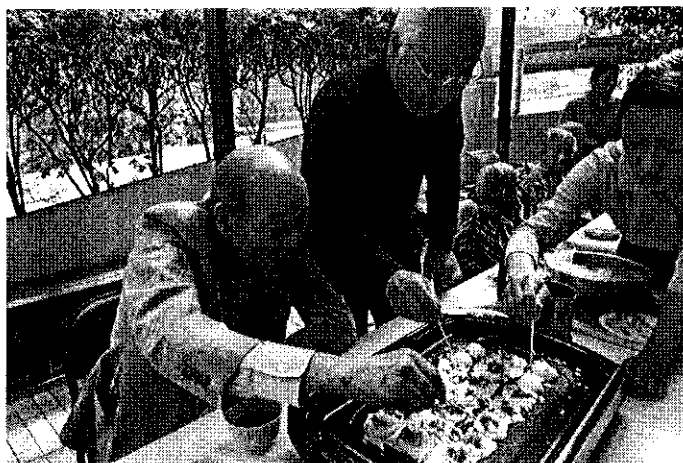
生活相談員 中井 耕大

新緑の爽やかな季節、梅寿荘デイセンターではテラスでたこ焼きパーティを開催しました。皆さんが手際よくひっくり返されたたこ焼きを、職員も一緒にみんなで美味しくいただきました。

さて、今年度、私たちは着々と進めております機能訓練について、これまで不十分であった機能評価の実施を事業計画に掲げています。早速4月には評価ツールを使用した日常生活動作の評価や、移動能力やバランス能力などの身体機能測定の実施を行いました。お身体の状態に

よって測定が困難な方もおられますが、その方に応じた、可能な限り個別の機能評価を行いたいと考えています。

機能評価を行う中で、それが動機付けになったのか喜ばしいことに多くの方が今まで以上に運動をすることについて意欲的になられています。測定する数値の維持・向上も嬉しいことですが、運動をする満足感や精神面の活性化につながり、またたこ焼きがひっくり返せる、それを美味しく食べることが出来るなど、些細なことでも日常生活に希望を持っていただけることを目標に今後も継続して取り組んでいきたいと思っております。



テラスでのたこ焼きパーティ



バランス能力測定

梅寿荘

アニマルセラピー

ユニットリーダー 杉田 和則

皆さんは、動物はお好きですか。私達の施設では前年度より職員の飼犬に協力してもらい、アニマルセラピーというものを実施しております。これは、動物とのふれあいを通して、利用者の方のストレス軽減や癒しになればと始められました。職員の小さな思いつきで導入されたこの活動は好評で、毎回楽しい時間を過ごしていただいています。

私自身、動物には不思議な力があると感じており、犬を抱っこしたり撫でたりされた利用者の方は自然と笑顔に溢れています。犬を飼われた経験がある方もおられ、懐かしい気持ちになるようです。

このように、限られた生活空間の中でも皆さんに素敵な体験を提供できるよう、今後も色々な活動を企画できたらと考えております。



アニマルセラピーの人気者ポチくん

梅寿荘 居宅介護支援センター

新しい時代を迎えて思うこと…

介護支援専門員 西山 直子

明日への希望とともにそれぞれの花を咲かせることができるような時代にと「令和」がはじまりました。居宅介護事業所でもご利用者一人一人が自分の意思でサービスを選択し、自分の思う生活を営んで頂けるようなケアマネージメントを行いたいと励んでいます。でも、独居の方が病気や怪我で在宅生活が困難になられた場合、またご本人が意思決定できなくなった場合などケアマネー

ジャーが判断しなければならない時があります。その判断がその後のご利用者の人生を左右することもあり、「本当にこれで良かったのか？」まだまだ未熟な私には思い悩むことが多々あります。そんな時、相談ができる先輩が傍にいて、ケアマネ会議で色々なアドバイスを受けられることが大きな支えになり、もう一歩の後押しをして頂いています。今年2月に市役所からの実地指導があり、アセスメントやプラン作成等の指導を受け、自分の見る方向性が偏っていたことにも気づかされました。今年度よりケアマネ会議で更新・新規等のプランチェックを全員で行い日々研鑽の場としています。これからもご利用者・ご家族の思いを受け止め、傍に寄り添いながら少しでも笑顔に繋がるようなケアマネージメントを目指していきたく思います。

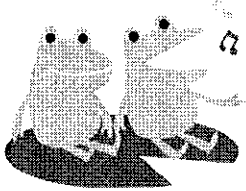
デイセンター憩の家

地域密着型のデイセンター

生活相談員 友國 和之

デイセンター憩の家は地域密着型の認知症対応型通所介護事業所なので、運営推進会議を年間2回実施することを義務付けられており、施設の透明性を図るために、利用者のご家族や市役所の職員さん介護事業所や近隣住民代表の方などで構成されている会議を実施しております。私たちが関わっているご利用者への対応についての憩の家からの

報告や、ご利用者の活動写真を見ていただいたり、皆様からどのようなサービスを提供しているのかご理解いただいたうえでアドバイスをいただきます。活動写真は華やかな場面を見ていただいておりますが、実はそこに至るまでのプロセスが大切と感じて下さいます。開催の都度思うのは、会議のときの透明性を図るのではなく、普段から、いつご家族や関係者の方が訪問に来られても恥ずかしくない対応や、いつでもご意見や要望を聞かせていただく施設のスタイルが必要と感じています。また、花と緑のわが町づくり事業（フローラム）で外観をきれいにし、近隣の方とのお話のきっかけを作り、サロン等のボランティア活動にも参加することで他の事業所を知り、地域全体の「和」ができることが地域密着型デイセンターの役割になるのではないかと考えます。



児童施設より



いこまこども園

新しい仲間、新しい避難グッズ

副園長 西浦 正翁

桜の花が満開となった4月。新しいお友だち（62名）を迎え、入園式を行いました。入園式では、担任の先生からお名前を呼ばれ、大きな声で「ハイ！」と返事をするお友だちや、恥ずかしそうに手を挙げるお友だち、お家の人と一緒に返事をするお友だち。みんなの顔がニコニコしていました。今日から「いこまこども園」の仲間となりました。この園児たちの「安心」と「安全」をより高めていくために、本年度から、「防災頭巾」と「上靴」を採用しました。「防災頭巾」は、市販の物や手作りの物で、保護者の皆さんに用意してもらいました。また、「上靴」は、室内用として履いています。月一回、金曜日に行う「消火避難訓練」の後、家庭に持って帰ってもらい、翌週の月曜日に持って来てもらうようにしています。



消火避難訓練（防災頭巾）

先日、「防災頭巾」を付け、「上靴」を履いたまま、園舎外に避難する訓練を行いました。

「防災頭巾」をかぶるのに時間が要するかと思いましたが、スムーズに出来ました。

今後も安全を確保し、より早く避難できる訓練を行っていきたいと思います。

これからも、園児たちの「笑顔」を絶やさない保育を続けていきたいと思います。

いこま乳児院

令和最初の「子どもの日」

保育士 上田 有紀

乳児院では、5月5日の節句に令和最初の行事として「子どもの日」を祝い、子どもたちと共にウッドデッキでお弁当を食べたり、ゲームをしたりして楽しみました。



新しい兜です

今年は、昨年度頂戴したご寄付で兜とこいのぼりを新調することが出来ました。乳児院は、「すぎのこ」という建物の3階にあり、そのウッドデッキにポールを立てて揚げる為、とても高い所をこいのぼりが泳いでいます。朝、職員がこいのぼりを揚げていると、それを見て子どもたちが、「〇〇あーちゃんががんばれ〜」と応援してくれたり、夕食後、食堂からホールに戻って、こいのぼりが降ろされていると、「こいのぼりいない…」「こいのぼりは、お外が暗くなる前に帰ったよ」というやり取りがあったりと毎日、こいのぼりを見るのを楽しみにしています。

新しい令和の時代もこいのぼりの家族の様に、仲良く元気に過ごせるように、職員一同協力していきたいと思っています。



鯉のぼりと一緒に

平城児童センター

センター 新年度のとりくみ!!

センター長 徂徠 おさむ

平成三十一年度は、「はじめのいっぽ」「どろんこの森」「地域とのふれあい交流」の通念活動を実施しています。恵まれた自然環境の中で、農作業、野外活動、社会体験など家庭ではなかなか体験できない活動を行い、参加者に「センターに来て楽しかった」と実感できるような活

動を行っていきたいと考えています。

昨年の十月には「児童館ガイドライン」が改正されたことから児童が意見を述べる場を提供すること努めていきたいと考えています。センターの活動に自由に意見を言えることや、子どもたちの話し合いの場を増やし、自分たちで遊びを計画し、活動できるように援助していきます。このような取組みを通して異年齢児との交流、仲間意識の醸成や協調性を高めるようにしていきます。また子育て家庭には交流の場を提供するなどの子育て家庭への支援を行うとともにキャンプ場の整備を計画的に実施し、利用する人たちの期待に応えられるセンター作りを進めていきます。

児童発達支援センター 仔鹿園

職員のスキルアップを目指して

保育士 西口 妙子

今年度は、在園児35名、新入園児24名の計59名、職員も若い2名が加わりスタートしました。平成から令和改元の記憶に残る年です。

現在、入園からもうすぐ2ヶ月が経とうとしています。初めは新しい環境に戸惑い、朝の迎いのバスや園内で元気な泣き声がたくさん聞こえてきていましたが、その賑やかさが今度はだんだんと笑い声に変わり、仔鹿園を楽

しみにして笑顔で登園してくる子どもたちが増えました。

子どもたちが落ち着いて過ごせるようになると、さあ、私たちの本領発揮です。一人ひとりの特性を把握し、今どんな療育をしていくべきなのかを考え、取り組んでいきます。さらに、園内研修を年間で7回行い、職員のスキルアップを目指しています。研修委員で集まり、事前にどんな研修を行うのかを話し合って今年度は、「身体拘束」「虐待」「感染症」「療育で使える玩具作り」「アレルギー対応」等をテーマにしました。自分のクラスのことだけでなく、他クラスではどんな子どもがいて、どんなことに取り組んでいるのかを知り、職員みんなで、子どもたちにより良い療育を提供していけるようにしたいと思っています。

でいあー

発達に合わせた質の高い療育を目指して

奈良県発達障害者支援センター 主任 大西 和幸

新年度を迎えるこの時期は、でいあーは最も慌ただしくなります。毎年4月2日は世界自閉症啓発デー、4月2日から8日は発達障害啓発週間があり、この時期に発達障害を広く知ってもらえるように様々な活動を行っているためです。大和郡山城天主台のブルーライトアップでは、ブースを作り当事者・ご家族とともに啓発の呼びかけを行いました。また、奈良市内で行われました啓発ウォークへも参加しました。「来て！見て！知って！自閉症&発達障害」というイベントを生駒駅前前のベルテラスいこまで開催しましたが、こちらは福祉事業所の物品販売や地域の子どもたちによるチェアダンスのパフォーマンスがあり、道行く人々に興味を持ってもらいました。講演会「子育て奮闘記とゲストトーク」には160名の参加があり、笑いあり涙

ありの講演内容が印象的でした。また、「大人の発達障害セミナー」もイオンモール橿原で開催し、就職に関する講演会やワークショップがあり、熱い議論がされました。さて、慌ただしく始まったでいあーですが、昨年7月に移転してからもうすぐで1年がたちます。二次的な専門機関として動き始めましたが今後も様々な取り組みを行っていきたいと思います。



ベルテラスいこまでのイベント

あすかの保育園

お外あそび、大好き！

保育士 原田 愛子

新年度から1ヶ月半が過ぎ、子どもたちも新しい環境にもだいぶ慣れてようやく泣き声も笑い声になってきました。子どもたちはお外あそびが大好きです。草花や木の実などを集めたり、ままごとあそびに使ったりと目をキラキラさせて夢

中になって遊んでいます。また、「この虫なあに?」「このお花きれい!」「こんなの見つけたよ!」と、驚いたり発見したりしたことを保育士に教えてくれます。

あすかの保育園の自然豊かな環境の中で、見たり、聞いたり、触ったり、五感をたっぷり使って遊ぶことを大切にしながら、子どもたちの発見に共感し、興味、関心を広げてきたいと思います。そして子どもたちの日常が更に豊かになるような保育を考え、共に成長できるようにと思います。



虫を見つけた!!

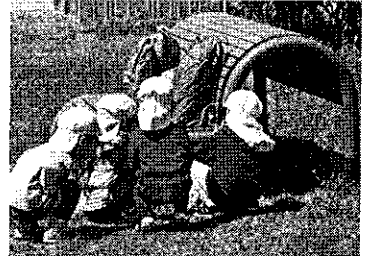
いっぽ

実り多い散歩の為に...

保育士 大島 友美

新しい年度が始まり1か月が経ちました。今年度は昨年度から継続のお子さんが多く、例年よりも少し落ち着いたスタートとなりました。子どもたちが慣れてくれている分、良い季節にたくさんの発見がある散歩に出かけよう!

と職員同士で話し合い、計画を立てたその矢先に滋賀での悲しい、心痛む事故が起こりました。いっぽには園庭はなく、立地も街中の為、散歩となると奈良町の狭い道路を通る事もあります。散歩が子ども達にとって良い思い出と経験になるように、今一度安全面での見直しを行い、職員一同改めて気を引き締めて子ども達の安全を守っていきたいと思います。



ベンチの下に集合ー!

極楽坊保育園

笑顔あふれる一年に

リーダー保育士 林 祥子

今年は元号が変わり「令和」という新しい時代の幕開けと共に極楽坊保育園にとっても記念となる創立70周年の年がスタートしました。

今年度も多くの新入園児を迎え、乳児クラスの保育室からは泣き声が響き渡っていました。進級児や幼児クラスも、新しい生活や環境に慣れずに不安を感じていた子どももいましたが、友達や保育士との関わりの中で新しい生活にも慣れ、どの保育室からも子ども達の元気な声が聞こえて活気が感じられるようになってきています。

また、隣接する奈良市立飛鳥幼稚園との交流を、今年により深めていこうということになりました。今年の夏ごろには保育園と幼稚園を繋ぐ通路ができる予定です。体育遊びや触れ合い遊び、プール遊び、給食など、色々な楽しい活動を計画中です。

乳児クラスも、今よりも気軽に行けるようになり、広々とした園庭で草花や虫を見つれたり走り回って遊んだりすることを楽しみにしています。



飛鳥幼稚園交流



幼稚園へ遊びに行きました

こども支援センター あすなろ

発達に合わせた質の高い療育を目指して

副主任保育士 樋高 智代

こども支援センターあすなろでは、発達相談員による新版K式発達検査を実施しています。職員も検査や結果をお伝えする際に同席をしたり、発達相談員に発達について相談をしたりしていますが、今年度は新任職員も増えたことから、

より充実した療育を行う為にまた職員のスキルアップを目指し、発達相談員による学習会（年9回）をすることになりました。自主研修ですが第一回は沢山の職員が集まり、定型発達とは・検査内容の意味とはなどの話を聞きました。また今年度は、年齢別の療育のねらいに沿った遊びの立案をグループワークで行い、立案された内容に沿って実際のクラスで後日実践するという研修も予定しています。あすなろ



の職員として専門的な知識を高め、職員が一丸となり資質向上を目指して頑張っていきたいと思えます。

児童発達支援ばんび

新年度を迎えて

児童発達支援管理責任者 早崎 志乃

桜の花が満開を迎える頃、平成31年度がスタートしました。大きく環境が変化する4月。

新しい生活が始まる子ども達、保護者の方々、そして私たち

職員を舞い落ちる花びらが応援してくれているようでした。

さて、今年度は継続児29名、新規児16名、計45名でのスタートとなりました。県内8市町村や県外と広域からご利用頂いています。利用児とそのご家族がそれぞれの地域で安心して過ごせるように、相談支援事業所や地域で通われている園をはじめとする関係機関との連携や、充実した療育の提供に努めていきたいと思えます。



いこま乳児保育園

年度始めに思うこと

保育士 添野 陽子

今年も0～1歳児の新入児を多く迎え新園生活がスタートしました。大泣きの日々が続きましたが、GWが過ぎると担

任に身を寄せニコリ笑い返し、離乳食を完食しハイハイやつたい歩き等披露してくれます。人生の中で成長著しい大切なこの時期、いつも大きな責任を感じています。子どもたちが安心・安全な環境のもとですくすく成長できるよう私達も様々な取り組みや研修で磨きをかけ、その輝きを発揮できる場であり続けたいと思えます。



愛染寮

愛染寮こもれびだより

～様々なことに挑戦します～

栄養士 寺嶋 晴香

数年前から子どもに自分の誕生日に食べたいおやつを聞き、誕生日当日にこもれび（うちの食堂の愛称です）からのお祝いとして、子ども全員に作っています。近年、リクエストがハイレベルなものになってきており、バスクチーズケーキやいちごあめ、カステラ、パフェ、アイスクリーム、たい焼きなど実に様々です。土日のお昼ご

飯はこもれびと一緒に食べるのですが、みんな大変楽しみにしてくれていて「僕の時は〇〇頼んだ!」「私はまだ悩んでるねん。」などいろいろな話を聞かせてくれます。一生懸命考えてくれているのだから私たちも一生懸命応えられるよう頑張ろうと思ひ、日々奮闘しています。誕生日おやつの後には幼児さんからは可愛いお手紙をお礼として頂くことが多く、本当に幸せな気持ちになり、ここで長年勤めていてよかったと実感しています。

現在こもれびは新しいすぎのこの1Fにあります。建て替え前に食堂のあった場所には、今も姿変わらず花壇があります。お花まつり時期にはご寄付で頂くチューリップを植え、咲き終われば、次はこども園に行く前の幼児さんと秋に収穫するためにさつまいもを植えようかという話になり、他にも子どもの日には夕食でバイキングをしたり、夏祭りには屋台を出したり、イベント盛りだくさんな1年を皆で頑張ろうと思ひます。

叙勲 瑞宝単光章 受章

いこま乳児保育園

園長 家 治 圭 子

叙勲を頂いて

総務部長より電話で「叙勲の内定がありましたよ。」と、お言葉を頂いたときに「えっー私がですか？」と、びっくりと驚きの返事だったと思います。私は法人に長くお世話になっているだけで、子どもが好き、一緒にいると和ませてくれ楽しく日々を送らせてもらっています。叙勲されている方を見させて頂くと色々なことに貢献されている方であり私のような若輩者が頂いているのか？正直身に余る思いで心ゆらいでおります。そうこう思っている時経つのは早く22日には県庁での伝達式があり、勲章と賞状を頂いた時には、どきどき感と緊張でいっぱいでした。

伝達式より2日後皇居での拝謁。元極楽坊保育園園長村園長先生と一緒にだったので安らぎを感じさせていただきました。平成から令和に変わり始めての年に短時間ではありましたが、天皇陛下を目前にお言葉を頂き一生の良い思い出になると共に改めて勲章の重さを痛感いたしました。

乳児保育園（0歳〜2歳児）は、大人の土台となる大切な時期・その一番大切な時期に私は関わらせていただいています。1人1人の子どもの要求を出来るだけ受け入れ安心して過ごせるように。また、保護者の方にも出来るだけ声をかけ話しやすい居場所を作り、寄り添って子どもたちの成長を喜び合えるようこれからもこの仕事に精進したいと思っております。

この賞を頂いたのも理事長はじめ多くの方々との時々携わった皆様に感謝を申し上げます。有難うございました。

極楽坊保育園

前園長 松 村 善 子

ご縁をいただいた方々に感謝しています

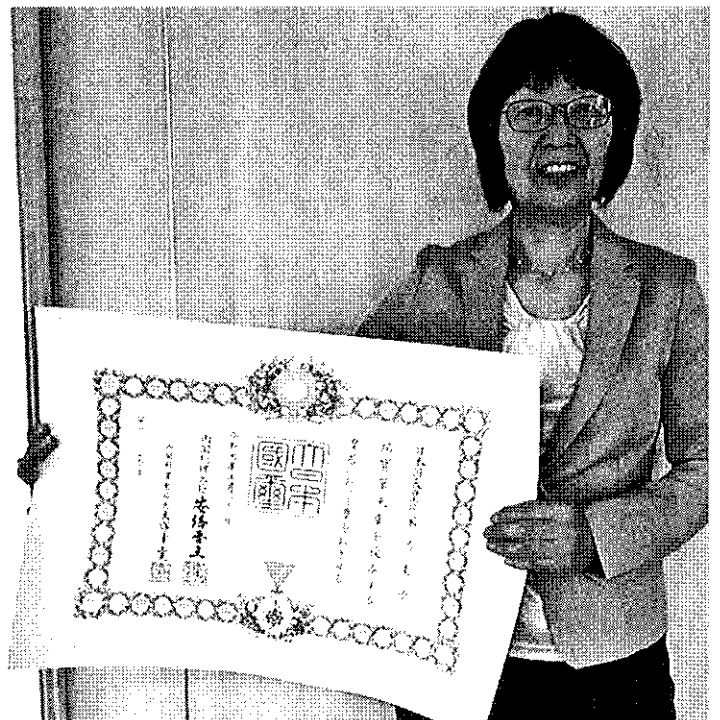
3月末で定年を迎えようとしていた私のもとに、「春の叙勲の内定が届きました。新しい天皇陛下からいただくのですよ」と辻村副園長から伝えられた時は、本当に驚きました。「私が…」と戸惑いながらも、年号が新しくなった最初の叙勲の受章は、仕事を終える私にとつては、何よりもうれしいご褒美になり、日に日に喜びを感じています。

宝山寺福祉事業団の扉を開いていただいて幼い頃からの夢を叶え、理事長と3人の園長先生、辻村泰園先生、中山紀代子先生、西野寛先生にこれまで導いていただき、子供たちに見守られ大好きな仕事を、38年間続けることができました。長い年月、一緒に過ごしてきた子どもたちと保育園の職員だけでなく法人施設の職員の方々、また子どもたちを通してご縁を結んでくださった方々と貴重な出合いを数えきれないぐらいさせていただきました。

こんな大きなご褒美をいただくことができたのは、出会った方々が私を育ててくださり、いろいろな場面で温かく支えてくださったおかげです。これまでに出会ったすべての方々に感謝申し上げます。

うれしい受章と宝山寺福祉事業団の職員として務められたことを誇りに、子どもたちとの抱えきれない思い出を心の支えにして、これからの人生も豊かに歩んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、宝山寺福祉事業団でご縁をいただきお世話になった皆様、ありがとうございました。



追悼の記

さようなら中山さん!

喜田洋

中山文夫さんが逝ってしまった。3月7日、享年90歳だった。

いこま保育園の園長を長く勤め、児童福祉のみならず、弱い立場の人たちに目を向け、福祉事業の全てに心血を注いだ。いのちの電話や小さな親切運動など、ボランティア活動の先頭に立ち、温かな人の輪を大きく広げた。

なにより人が好きだった。そしてお酒も…

まだまだ聞きたいこと、話したいことが、山ほどあった。一緒にうまい肴を食べ、美味しい酒をたらふく飲みたかった。

◇ そんなたくさんの人の思いを集めて「故中山文夫さんを偲ぶ会」が5月19日、生駒市の「いこまこども園」で開かれた。呼びかけたのは宝山寺福祉事



業団理事長辻村泰範▽元興寺住職辻村泰善▽奈良のちの電話協会理事長小林茂樹▽「小さな親切」運動生駒支部代表辻康彦▽春鹿会会長今西清悟の各氏。会場のホールには、ざっと百人が集まり、横浜市から遠路駆けつけてくれた奥さんの紀代子さん、長男太郎さん夫妻を囲み、それぞれに思い出話を花を咲かせた。

「福祉というのが何であるか、教えてもらった」「補助金など面倒な申請書は全部お任せだった」「何ごとにつけても人を巻き込み、引き込むのが上手だった」などなど。中山さんの一面を語るエピソードが次々に披露され、会場を沸かせた。中には、マイクを前にして数々の思いが頭に浮かび感極まったのか、何を話しているのかご本人も、そして聴く方もよくわからないまま立ち尽くすという場面もあった。

「えっ」と驚くような裏話も飛び出した。国政選挙に担ぎ出そうという動きがあったという。だが結局、「中山さんは清らかな人。ドロドロした政治の世界に入ってくる人と違う」という声が強し、話は立ち消えになったそうだ。

◇中山さんのお付き合いは、かれこれ半世紀になる。



初めてお会いしたのは昭和48年の5月、春鹿会という酒飲みが集まる席だった。当時、地元新聞社の駆け出し記者で、「面白い飲んべえの会があるから行ってこい」と上司に言われ、ノコノコと出掛けた。そこで面倒がらず、まず相手をしてくれたのが中山さんだった。

「ああそう。じゃ、そこに座って! まず一杯」。かすかな記憶をたどれば、そんなやりとりから始まった。いいおじさんたちが、喜々として七輪でメザシを焼き、大切そうに新聞紙に包んだ一升瓶から徳利に分けた酒をグビグビと飲んでいた。誘われるまま座り込み、飲んだ。翌日、記事は載ったが、どんな話を聞き、どうやって書いたか全く覚えていない。

◇中山さんは、この会の仕掛け人4人のうちの一人。昭和35年2月に産声を上げて以来、来年2月には60年目を迎える。人間で言えば還暦だ。この間、昭和58年7月までの23年と6ヶ月、中山さんは初代事務局長とし

て、口喧しい飲み助たちの真ん中にいた。幸か不幸か、4年前から後を継ぐことになった。とても同じことはできない。真似すら無理だ。いささかでも中山さんに近づきたいと思いを巡らす毎日が続いている。

◇偲ぶ会の会場の遺影のそばに、横浜市に移ってから撮られたと思われる三葉の写真が飾られていた。お孫さんだろうか、幼子を膝に乗せ、少し緊張した面持ちの中山さんがいた。大勢のご家族に囲まれ、すました顔の中山さんもいた。

締めくくりの挨拶で、太郎さんは振り返った。

「二十歳で生駒に来て、充実した人生だったと思う。生涯、おやじと思っていた辻村泰圓さんとお会いできたのも幸せだった。亡くなる前日、テレビを見ながら『ビールが飲みたいなあ』とつぶやいていた。最期までお酒に未練があったのでは…。今頃、向こうの世界で泰圓さんと思う存分飲んでいると思う。時折でも、そんな父を思い出してもらえればうれしい」

◇今となつては、話すことも酒を酌み交わすこともできなくなりました。

残念という言葉しか思い浮かばない。だが、中山さんのことだ。きつと遠い空の上から、いつもの温かい眼差しで見守ってくれていることだろう。

さようなら 中山さん!

「おおきに」

中山 紀代子

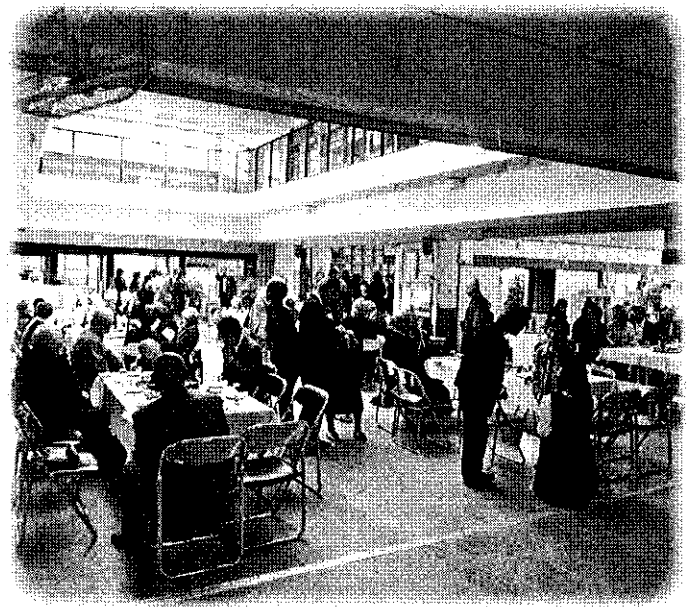
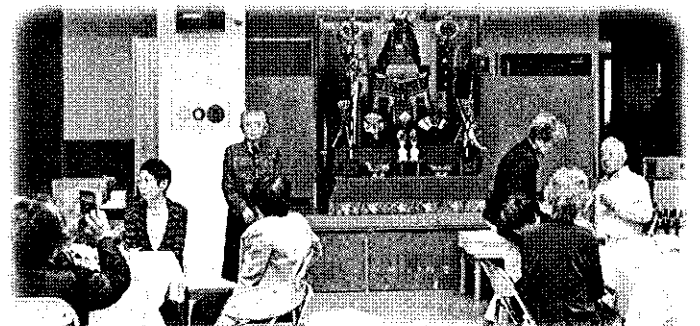
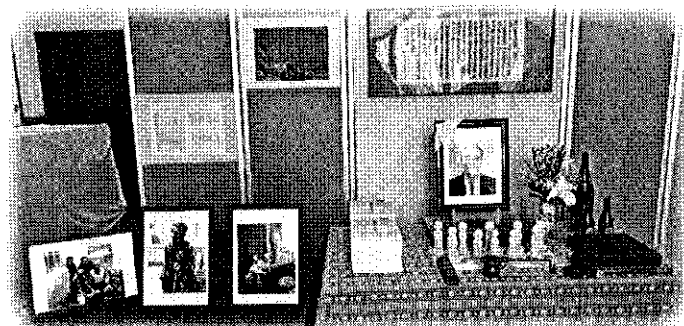
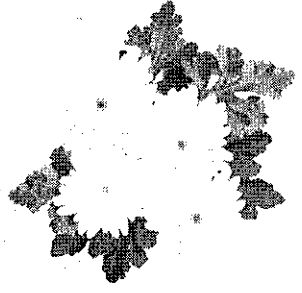
在りし日、社会福祉について語り、好きなお酒を酌み交わし、主人の我が儘を受け入れてくださった大勢の方々が「故中山文夫偲ぶ会」にお集り下さいました。五月十九日、かつて本人が二十五年間大好きなお子さん達と過ごした「いこま保育園」に於いて、社会福祉法人宝山寺福祉事業団理事長辻村泰範様をはじめご有志のお呼び掛けで開催されました。ありがたいことです。懐かしいお顔が揃い、始まる前から胸がいっぱいで開会のご挨拶もままならない状態でございました。

も絶えず心を寄せておりました。「小さな親切の会」「奈良いのちの電話」などを立ち上げる時も、周りの皆さんを巻き込みご迷惑をお掛けしたと思いますが、これらが必要であるという信念があったのでしよう。今もって皆様のご協力、お支えによって活動出来ていることは有難い事でございます。亡き人の事は良い事のみ思い出しますが、本当に心の温かい人だったと思います。

冒頭、辻村理事長様から、「中山さんが居なかったら今の法人は成り立たなかったでしょう」とお褒めのお言葉を頂き、主人の六十五年が報われたと有難く思いました。春鹿会の今西様、呑会のお仲間からは、呑んだ上での数々の我が儘ぶり、森岡様からは奥野誠亮様との話など各グループからもスピーチを下さいましたが、私は初めて聞かせて頂いた事ばかりで泣き笑いの会でありました。本人は多分神妙に聞いていたのではないのでしょうか。

横浜へ参りまして三年半、良い環境、かわいい曾孫とのふれ合いと快適な生活をしておりましたが、一度崩した体調は完全にはなかなか戻らず、三月七日未明、静かにあつ気なくあの世へと旅立ちました。長い間お支え下さり心より感謝申し上げます。主人も第二の故郷生駒から「おおきに」と申している事と存じます。

無類の酒好きの人のようでしたが、お酒に溺れることなく課せられた仕事、職務は絶対手を抜かず責任をもって当たっており、ボランティアに



施設長就任挨拶



梅寿荘在宅介護支援センター
センター長 齊藤 洋子

センター長就任挨拶

現在私は、梅寿荘在宅介護支援センターのセンター長として勤めておりますが、4月より梅寿荘在宅介護支援センター、センター長に就任し、兼務をさせていただきますことになりました。

私が法人にお世話になりましたのが、H10に梅寿荘在宅介護支援センターで開講された第1期ホームヘルパー2級養成講座でした。何か人の役に立てる仕事はないかと考えていた時に講座を知り、迷うことなく飛び込み、資格取得後そのままヘルパーとして勤めることが出来ました。その頃はまだ措置でのヘルパー派遣でしたが、今では考えられない程重度な方が在宅で暮らしておられました。未熟な私には大変な仕事でしたが、先輩方に助けられながら出来たことが今となっては良い経験だったと思います。

今は居宅介護でケアマネジメントを行い、高齢者支援に携わっていますが、全てを介護サービスで担うことは難しく、インフォーマルな支援や地域支援が必要だと実感しています。生駒市では、地域包括支援センターが地域の相談窓口、介護予防や地域づくりの役割を担っていますが、在宅介護支援センターが今まで築いてきた地域との繋がりは生きています。居宅介護支援センターと在宅介護支援センターの役割を上手くかみ合わせ、地域包括と連携しながら、いつまでも住み慣れた地域で暮らし続けられる地域作り、高齢者支援に取り組みたいと思います。今後ともどうぞよろしく、お願い致します。



極楽坊保育園
園長 辻村 泰聡

70年のバトンを受け継いで

4月1日付で、極楽坊保育園の園長に就任いたしました。この法人に入職してから11年間、極楽坊保育園で事務を務め、平成29年度からの2年間は、副園長として前任の松村園長を補佐する立場で園運営に関わってまいりました。私は保育の現場育ちではないので、園長になって改めて、園の保育のことをこれほど知らなかったのかと日々痛感する次第です。そんな中でも、無事に保育を進めてもらっているのは、現場の先生たちの支えがあつてのことと感謝しております。保育をめぐる情勢は、この数年目まぐるしく変わり続けています。幼児教育・保育の無償化、待機児対策、処遇改善：隣接する市立飛鳥幼稚園とを結ぶ通路もできることになり、幼稚園との交流もさらに深くなりそうです。あれもこれも大変だ！というよりは、毎日いろいろ面白いことが起こるものだと思います。楽しく仕事ができるように心がけています。

折しも今年、創立70周年の節目の年にあたります。70年という長い歴史と伝統を持つ園の舵取りを担うことになったことの重みを日に日に感じながら、時代・環境の変化や家庭や地域のニーズにきめ細かに対応できるよう、常に進歩を続けていきたいと思っております。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

平成30年度 下半期役員会報告

☆第二回理事会

平成30年12月10日 梅寿荘研修室

- 第1号議案 平成30年度第一次補正予算について承認を求め
る件
- 第2号議案 就業規則の一部改正について
- 第3号議案 上半期事業の概要報告について
- 第4号議案 理事長並びに業務執行理事の職務執行状況報告

☆第三回理事会

平成31年3月20日 ホテルリガーレ春日野

- 第1号議案 平成30年度第二次補正予算について承認を求め
る件
- 第2号議案 平成31年度事業計画案について承認を求め
る件
- 第3号議案 平成31年度資金収支当初予算について承認を
求める件
- 第4号議案 就業規則の改正について承認を求め
る件
- 第5号議案 施設長の選任について承認を求め
る件
- 第6号議案 法人苦情等対策委員任期満了に伴う改選につ
いて承認を求め
る件
- 第7号議案 理事長並びに業務執行理事の職務執行状況報告

新任職員からの一言



愛染寮
児童指導員 杉本拓也

決意

私は、愛染寮に児童指導員として入りもうすぐ2か月になるうとしています。まだ子どもたちとは距離をつかめず、日々ばたばたしています。しかし、初心を忘れずに子どもたちや先輩職員からも信頼される児童指導員になるために、三つのことを大事にしたいと考えています。

一つ目は、挨拶です。大切なコミュニケーションの一つとして大きな声でしっかり挨拶をし、お互いに気持ちよくなりたいものです。子どもたちは大人を見て生活しています。大人が挨拶をすることで子どもたちにも習慣づいてほしいと思います。

二つ目は、メリハリをつけることです。新米兄ちゃんとして子どもたちと生活していますが、まだまだ力不足でメリハリのある行動を子どもたちにとつてもらうことが難しいです。子どもたちには、今すること、してはいけないことなどメリハリのある行動をとってもらえるように努力していきたいです。

三つめは、子どもたちに寄り添い不安な気持ちや衝動、怒りを少しでも和らげてあげたいと思います。見ていると子どもたちは、一人で色々抱え込んでしまふことがたくさんあり、一人ひとりと向き合うことの大切さを実感しました。子どもたちと関わりを深めながら信頼関係を築いていくと共に、子どもたちや先輩職員から多くを学び自分自身も成長していきたいというのが、私の決意です。



特別養護老人ホーム延寿
介護職 矢野寧奈

自分を信じて

私が宝山寺福祉事業団に入社した理由の一つが「直感」でした。このようなことを言えば不真面目だ、ふざけていると思う方も中にはおられるかと思いますが、私にとつては至極真面目な理由なのです。ではその直感は当たっているのかと問われると、「私は間違っていないかった」と入社して一ヶ月経った今、答えることができます。正直初めは自分でも疑心暗鬼になり、入社するまでは「本当にこれでよかったのだろうか」と考え不安になることもありましたが、また、「社会人」という肩書がつくこと、人を相手にすることに關しても、とても不安を感じていました。しかし延寿で働いてみて感じたことは、先輩職員の皆さんが身体面や精神面に關して氣にかけて下さっていることでした。不安でいっぱい私の心が少しでも軽くなるよう声掛けをして下さり、またどのように仕事に向き合っていけばよいのかも教えて下さりました。しかしその中で結局は自分がどうしたいのか、どうなりたいたいのか、どこに価値観をもって仕事に向き合うのかを考えられるように導いて下さっているのを感じ、皆さんは相手を尊重することを大事にされているのだと思いました。だからこそ私は今こそ業務を覚えることで必死ですが、先輩職員の中を見つめながら自分を模索し、自分なりに「社会人とは」「仕事とは」を考えて自分のやるべきことと真摯に向き合っていきたいと思っています。



いこまこども園
保育教諭 林弘佳

憧れの保育教諭を目指して

私にとつて保育教諭は、高校三年生の時からの憧れの存在でした。クラスをまとめ、子どもとキラキラした笑顔で接する先生方の姿は、とても輝いて見え、「私もこんな先生になりたい」と思いました。

実際にこども園での仕事をさせて頂くと、想像以上に大変なことが多く、本当に憧れていた保育教諭になれるのだろうか、と不安に思うこともあります。しかし、クラスの先生の熱意のこもった指導を受け、まだまだこれから頑張らなくてはいけないと思い、必死に先輩方に追いつこうと仕事に食らいついています。

そんな中、朝クラスに入ると、子ども達から、「先生ー！」の声があがったり、子どもと一緒に遊んでいるときのまぶしい笑顔を見ると、こちらも自然と笑顔になり、愛おしい気持ちが溢れてきます。子どもとどんな遊びをすればもっと楽しんでくれるか、どんな声かけをすればもっと笑顔になるか、など、クラスの子どものことを考えながら過ごす日々は、とても充実したものになっています。

まだまだ未熟で、思い通りにならないことも多く、悔しい思いをする毎日です。先輩の先生の背中を追いかけてながら、自分ができることを精一杯努力し、自分を高めていきたいと思っています。子どもにとつて、この先生が担任でよかったと思ってもらえることができるような、温かく、笑顔の溢れる先生になれるよう頑張っていきたいと思っています。

人事

平成31年度 新採用正規職員

愛染寮

杉本 拓也 児童指導員
山中 玲奈 調理師

いこま乳児院

川田 理世 保育士
村田 美紗希 保育士
小松 明美 保育士

いこま乳児保育園

石川 裕美 保育士
田中 麻衣 保育士
斎藤 未央 保育士

極楽坊保育園

祐岡 舞衣 保育士
廣田 直俊 事務員

あすかの保育園

向井 瞳美 保育士
喜々田 遙香 保育士
増田 実希子 保育士
渡部 佑紀 管理栄養士

いこまこども園

林 弘佳 保育教諭
植田 ココロ 保育教諭
木澤 秋香子 保育教諭

こども支援センターあすなる

橋本 美和 保育士
森本 悠貴 児童指導員
梅津 幸生 児童指導員

でいあー

菅原 史登 相談員

延寿

矢野 寧奈 介護職員
高橋 恵未 作業療法士
今井 早知子 介護職員
宮里 百合子 看護師
今中 亮平 介護職員

梅寿荘

服部 草太 介護職員
高樋 慎太郎 介護職員

あくなみ苑

寺谷 勇輝 介護職員

デイセンター寿楽

谷口 直子 介護職員

梅寿荘地域包括支援センター

竹田 良枝 介護支援専門員

平成31年度異動職員

あすなる↓仔鹿園ばんび

井上 美瑞希 保育士

あくなみ苑↓梅寿荘

石田 渉 介護職員

平成30年度退職者

あすかの保育園

吉田 寛子 栄養士
島田 美代 保育士

いこま乳児院

墨 智美 保育士

極楽坊保育園

松村 善子 園長
大野 恵菜 保育士
藤本 由規子 保育士

坂上 あずさ 調理師

小 山 恵子 相談員

仔鹿園

藤田 麻里子 児童指導員

延寿

白 山 順子 看護師

梅寿荘

亀田 翔太 介護職員

栗本 有規子 ヘルパー

寿楽

南 雄二 介護職員

いこまこども園

山本 麻恵 保育教諭

法人苦情第三者委員会

平成31年3月4日(月)、苦情解決委員会が行われました。

平成30年度中に寄せられた苦情は、すでに対応済みのもの、また現在対応中のものを合わせて法人の全事業所20か所で58件でした。

【H30年度 法人内全施設苦情等集計状況】

●●●●●●●●●● 宝山寺福祉事業団 苦情等第三者委員名簿 ●●●●●●●●●●

(平成31年4月1日～令和3年3月31日)

谷口 誠	法人評議員 元メディカルセンター事務局長	新田 一郎	法人評議員 宝山寺事務長
宮本しげ子	法人評議員 奈良県いのちの電話協会 小さな親切役員	宮本 和子	元いこま乳児保育園園長 元民生委員
谷川 義明	法人監事 前下市町副町長	小川千恵里	生駒市社会福祉協議会 生駒市デイサービスセンター所長

第一号第一様式

法人単位資金収支計算書
(自)平成30年 4月 1日(至)平成31年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収入				
	介護保険事業収入	1,640,453,000	1,631,158,815	9,294,185	
	老人福祉事業収入	144,396,000	144,772,981	△ 376,981	
	児童福祉事業収入	398,077,000	401,783,451	△ 3,706,451	
	保育事業収入	764,256,000	756,672,330	7,583,670	
	障害福祉サービス等事業収入	462,056,000	467,637,444	△ 5,581,444	
	その他事業収入	6,380,830	5,447,233	933,597	
	借入金利息補助金収入	638,000	639,489	△ 1,489	
	経常経費寄附金収入	27,958,000	27,717,650	210,350	
	受取利息配当金収入	1,687,000	2,245,235	△ 558,235	
	その他の収入	29,005,000	30,278,991	△ 1,273,991	
事業活動収入計(1)	3,474,906,830	3,468,383,619	6,523,211		
支出					
人件費支出	2,469,225,830	2,434,731,483	34,494,347		
事業費支出	505,675,000	485,321,457	20,353,543		
事務費支出	313,153,000	293,233,925	19,919,075		
支払利息支出	1,094,000	1,089,165	4,835		
その他の支出	19,911,000	18,771,730	1,139,270		
流動資産評価損等による資金減少額	2,814,000	2,754,099	59,901		
事業活動支出計(2)	3,311,872,830	3,235,901,859	75,970,971		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	163,034,000	232,481,760	△ 69,447,760		
施設整備等による収支	収入				
	施設整備等補助金収入	28,042,000	28,042,400	△ 400	
	固定資産売却収入		380,000	△ 380,000	
	施設整備等収入計(4)	28,042,000	28,422,400	△ 380,400	
	支出				
	設備資金借入金元金償還支出	31,504,000	31,500,000	4,000	
	固定資産取得支出	121,486,000	119,765,185	1,730,815	
	固定資産除却・廃棄支出	155,000	151,200	3,800	
	ファイナンス・リース債務の返済支出	6,490,000	6,483,552	6,448	
	施設整備等支出計(5)	159,635,000	157,889,937	1,745,063	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 131,593,000	△ 129,467,537	△ 2,125,463		
その他の活動による収支	収入				
	積立資産取崩収入	110,170,000	101,669,675	8,500,325	
	その他の活動収入計(7)	110,170,000	101,669,675	8,500,325	
	支出				
積立資産支出	160,310,000	171,900,000	△ 11,590,000		
その他の活動支出計(8)	160,310,000	171,900,000	△ 11,590,000		
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 50,140,000	△ 70,230,325	20,090,325		
予備費支出(10)	0	0	0		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△ 18,699,000	32,783,898	△ 51,482,898		
前期末支払資金残高(12)	714,162,000	714,188,546	△ 26,546		
当期末支払資金残高(11)+(12)	695,463,000	746,972,444	△ 51,509,444		

第二号第一様式

法人単位事業活動計算書
(自)平成30年 4月 1日(至)平成31年 3月31日

(単位:円)

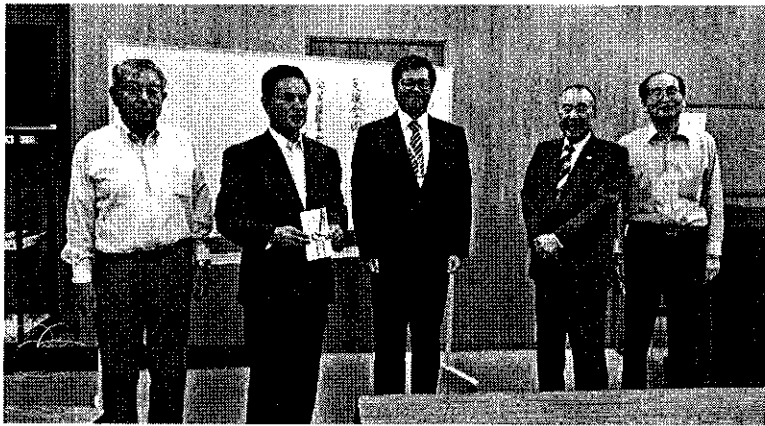
勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収入			
	介護保険事業収益	1,631,158,815	1,613,972,778	17,186,037
	老人福祉事業収益	116,809,006	114,523,568	2,285,438
	児童福祉事業収益	401,783,451	391,799,331	9,984,120
	保育事業収益	756,672,330	775,011,716	△ 18,339,386
	障害福祉サービス等事業収益	467,637,444	423,323,137	44,314,307
	その他事業収益	5,447,233	8,140,034	△ 2,692,801
	経常経費寄附金収益	27,747,650	11,556,860	16,190,790
	サービス活動収益計(1)	3,407,255,929	3,338,327,424	68,928,505
	費用			
	人件費	2,444,254,367	2,456,936,388	△ 12,682,021
事業費	463,187,807	436,719,086	26,468,721	
事務費	293,233,925	299,007,707	△ 5,773,782	
減価償却費	213,577,843	214,827,568	△ 1,249,725	
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 116,537,073	△ 128,002,037	11,464,964	
徴収不能額	141,000	53,158	87,842	
徴収不能引当金繰入		2,613,099	△ 2,613,099	
サービス活動費用計(2)	3,297,857,869	3,282,154,969	15,702,900	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	109,398,060	56,172,455	53,225,605	
サービス活動外増減の部	収入			
	借入金利息補助金収益	639,489	966,665	△ 327,176
	受取利息配当金収益	2,245,235	2,240,748	4,487
	基本財産評価益	1,015,000		1,015,000
	投資有価証券評価益	15,975,308	1,265,490	14,709,818
	投資有価証券売却益		295	△ 295
	その他のサービス活動外収益	30,278,991	33,959,511	△ 3,680,520
	サービス活動外収益計(4)	50,154,023	38,432,709	11,721,314
	費用			
	支払利息	1,089,165	1,514,535	△ 425,370
投資有価証券評価損		340,979	△ 340,979	
その他のサービス活動外費用	18,771,730	22,463,438	△ 3,691,708	
サービス活動外費用計(5)	19,860,895	24,318,952	△ 4,458,057	
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	30,293,128	14,113,757	16,179,371	
経常増減差額(7)=(3)+(6)	139,691,188	70,286,212	69,404,976	
特別増減の部	収入			
	施設整備等補助金収益	28,042,400	14,683,555	13,358,845
	固定資産受贈額		1,949,884	△ 1,949,884
	固定資産売却益			379,999
	その他の特別収益	379,999		379,999
	特別収益計(8)	28,422,399	42,805,455	△ 42,805,455
	固定資産売却損・処分損	159,721	95,106	64,615
費用				
国庫補助金等特別積立金積立額	28,042,400	14,683,555	13,358,845	
その他の特別損失		1,346,246	△ 1,346,246	
特別費用計(9)	28,202,121	16,124,907	12,077,214	
特別増減差額(10)=(8)-(9)	220,278	43,313,987	△ 43,093,709	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	139,911,466	113,600,199	26,311,267	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	1,124,608,474	1,099,738,275	24,870,199
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	1,264,519,940	1,213,338,474	51,181,466
	基本金取崩額(14)			
	その他の積立金取崩額(15)	71,500,000	41,500,000	30,000,000
	その他の積立金積立額(16)	135,900,000	130,230,000	5,670,000
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	1,200,119,940	1,124,608,474	75,511,466

法人単位貸借対照表
平成31年 3月31日現在

(単位:円)

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	990,597,664	903,459,290	87,138,374	流動負債	387,677,772	325,182,311	62,495,461
現金預金	561,210,474	498,101,669	66,108,805	事業未払金	144,687,083	150,383,970	△ 5,696,887
事業未収金	358,565,277	357,543,018	1,022,259	その他の未払金	52,705,080	0	52,705,080
未収金	2,640	624,812	△ 622,172	1年以内返済予定設備資金借入金	31,500,000	31,500,000	0
未収補助金	65,893,612	46,257,402	19,636,210	1年以内返済予定リース債務	6,483,552	5,252,352	1,231,200
貯蔵品	43,000	41,028	1,972	預り金	4,573,665	4,224,345	349,320
立替金	308,662	807,710	△ 499,048	職員預り金	41,659,392	37,275,528	4,383,864
前払金	754,368	1,679,939	△ 925,571	賞与引当金	106,069,000	96,546,116	9,522,884
前払費用	819,631	1,016,811	△ 197,180				
徴収不能引当金	0	△ 2,613,099	2,613,099				
固定資産	5,316,563,009	5,319,826,456	△ 3,263,447	固定負債	189,175,380	219,212,707	△ 30,037,327
基本財産	3,123,871,114	3,199,600,763	△ 75,729,649	設備資金借入金	45,000,000	76,500,000	△ 31,500,000
土地	323,061,540	323,061,540	0	リース債務	21,019,380	25,387,032	△ 4,367,652
建物	2,795,649,574	2,872,394,223	△ 76,744,649	長期預り金	123,156,000	117,325,675	5,830,325
投資有価証券	5,160,000	4,145,000	1,015,000	負債の部合計	576,853,152	544,395,018	32,458,134
その他の固定資産	2,192,691,895	2,120,225,693	72,466,202				
土地	4,433,872	4,433,872	0	純資産の部			
建物	9,305,637	20,208,927	△ 10,903,290	基本金	778,885,360	778,885,360	0
構築物	48,434,207	45,890,178	2,544,029	国庫補助金等特別積立金	1,959,995,015	2,048,489,688	△ 88,494,673
機械及び装置	304,191	357,284	△ 53,093	その他の積立金	1,791,307,205	1,726,907,206	64,400,000
車輛運搬具	9,474,189	10,038,290	△ 564,101	人件費積立金	164,750,000	165,250,000	△ 500,000
器具及び備品	71,427,143	74,853,244	△ 3,426,101	施設整備等積立金	1,229,280,000	1,194,230,000	35,050,000
有形リース資産	28,153,080	30,732,263	△ 2,579,183	ひめゆり基金運営積立金	19,080,000	17,980,000	1,100,000
ソフトウェア	3,441,353	2,199,045	1,242,308	社会福祉事業等運営積立金	226,700,000	198,700,000	28,000,000
投資有価証券	102,965,017	86,989,709	15,975,308	公益事業等運営積立金	113,615,000	112,865,000	750,000
長期預り金積立資産	123,156,000	117,325,675	5,830,325	福祉基金積立金	37,882,206	37,882,206	0
人件費積立資産	164,750,000	165,250,000	△ 500,000	次期繰越活動増減差額 (うち当期活動増減差額)	1,200,119,940	1,124,608,474	75,511,466
施設整備等積立資産	1,229,280,000	1,194,230,000	35,050,000		139,911,466	113,600,199	26,311,267
ひめゆり基金運営積立資産	19,080,000	17,980,000	1,100,000				
社会福祉事業等運営積立資産	226,700,000	198,700,000	28,000,000	純資産の部合計	5,730,307,521	5,678,890,728	51,416,793
公益事業等運営積立資産	113,615,000	112,865,000	750,000	負債及び純資産の部合計	6,307,160,673	6,223,285,746	83,874,927
福祉基金積立資産	37,882,206	37,882,206	0				
差入保証金	290,000	290,000	0				
資産の部合計	6,307,160,673	6,223,285,746	83,874,927				

広がれ支援の輪！



4月に開いた滝寺お花まつりでのバザーの収益金を今年も、なら犯罪被害者支援センターに寄付をさせていただきました。多くの方が犯罪被害者の存在を知って支援の輪が広がるようにとの思いを込めて田中一嘉、花まつり実行委員長から犯罪被害者支援センターの東元伸光事務局長に手渡されました。

犯罪被害者の支援に有効に活用したいと感謝の言葉をいただきました。

編集後記

中山文夫先生が天国に旅立たれた。畏れ多いのですが私にも中山文夫先生の思い出が僅かばかりあります。10年前、法人の親和会の役員会に初めて出席をした時の事、役員の皆様方を目の前にして自己紹介をした、あがり症の私は、極度に緊張してしまい、予定していた自分の名前前の説明がしどろもどろになってしまったのです。恥ずかしく情けない思いの私に、「公明正大ということやな。」と優しく声をかけてくださいました。どれだけ嬉しかったことでしょう。

今、後書きを記していて、中山先生が編集長として百号を優に超える、法人の歴史の歩みとして綴ってこられた、このひめゆり通信に関わらせていただいている事は、私には過分なお役目ではありますが、一時でもその作業に携わることが出来ることに感謝いたします。

公子(まさこ)